

科目名 (英) 学科・コース	英会話・医学英語 (English・Medical English) 救急救命士科	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	ILC	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 4時限	
【授業の学習内容と心構え】								
滋慶学園の英語教育に長期にわたって携わり、Active Learningに取り組んできたネイティブの英語教員が、学生が専攻分野に関連した専門英語の基本的な表現を使って、外国人を前に怖がったり、恥ずかしがったりせず、流暢でなくとも意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につけることを目的としたコミュニケーション主体の授業を行う。								
【到達目標】								
医療英語テキストに基づき、文法、発音、リスニングなど英語を習得するスキルと、医療に関する英語語彙を様々なアクティビティを通して学ぶ。医療の場面で簡単な英語コミュニケーションができるようになる。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
医療英語コミュニケーション				専門用語が頻繁に出てくるので、予め教科書を読み、予習してくること。また、授業後復習をし、より確実に身につけることが望ましい。				
回	授業概要	回	授業概要					
1	【授業単元】L1 クリニックで使える表現 【授業形態】講義 【到達目標】 患者さんに受付案内ができるようになる 患者さんに医療文書について説明できるようになる	9	【授業単元】L4 症状4 【授業形態】講義 【到達目標】 事故の被害者と話せるようになる2					
2	【授業単元】L1 個人の情報 【授業形態】講義 【到達目標】 患者さんの個人情報を聞き出す事ができるようになる	10	【授業単元】L5 既往歴 1 【授業形態】講義 【到達目標】 過去の病歴や家族の病歴について話せるようになる					
3	【授業単元】L2 場所案内の表現1 【授業形態】講義 【到達目標】 病院案内ができるようになる	11	【授業単元】L5 既往歴 2 【授業形態】講義 【到達目標】 EMTの現場で既往歴を話すことができるようになる:ロールプレイ					
4	【授業単元】L2 場所案内の表現2 【授業形態】講義 【到達目標】 救急救命の現場で場所や行き方を説明するできるようになる	12	【授業単元】L6 既往歴 3 【授業形態】講義 【到達目標】 過去の病歴について話せるようになる2 アレルギーを説明できるようになる					
5	【授業単元】L3 症状1 【授業形態】講義 【到達目標】 痛みの程度(強弱)を説明できるようになる	13	【授業単元】L6 症状5 【授業形態】講義 【到達目標】 事故の被害者と話せるようになる3:アレルギーについて					
6	【授業単元】L3 症状2 【授業形態】講義 【到達目標】 事故の被害者と話せるようになる1	14	【授業単元】 L7 健康診断 【授業形態】 【到達目標】 人に指示することができるようになる					
7	【授業単元】L4 症状3 【授業形態】講義 【到達目標】 様々な病状を説明できるようになる1	15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 定期試験					
8	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 中間試験	【評価について】 評価は、筆記試験で行う。授業内で学習した内容の定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。						
【特記事項】				毎回、教科書を持参すること。また、講義において、ノートを丁寧にとること。				

科目名 (英)	英会話・医学英語 (English・Medical English)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	ILC
		授業形態	講義	総時間(単位)	30 時間(2)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 4時限

【担当教員紹介と授業の学習内容・構成】

滋慶学園の英語教育に長期にわたって携わり、Active Learningに取り組んできた英語教員が、学生が専攻分野に関連した専門英語の基本的な表現を使って、外国人を前に怖がったり、恥ずかしがったりせず、流暢でなくとも意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につけることを目的としたコミュニケーション主体の授業を行う。

【到達目標】

医療英語テキストに基づき、文法、発音、リスニングなど英語を習得するスキルと、医療に関する英語語彙を様々なアクティビティを通して学ぶ。医療の場面で簡単な英語コミュニケーションができるようになる。

【使用教科書・教材・参考書】 医療英語コミュニケーション	【授業外における学習】 専門用語が頻繁に出てくるので、予め教科書を読み、予習してくること。また、授業後復習をし、より確実に身につけることが望ましい。
回 授業概要 【授業単元】L7 内科1(身体計測・診察時の表現)① 【授業形態】講義 【到達目標】 1 診察時患者に指示できる	回 授業概要 【授業単元】L12 整形外科・整骨院(接骨院) ① 【授業形態】講義 【到達目標】 9 骨の名称を知る・言える 患者の傷害を確認できる
【授業単元】L7 内科1(身体計測・診察時の表現)② 【授業形態】講義 【到達目標】 2 患者への指示に関する表現を知る条件文を使い、患者に指示できる	【授業単元】L12 整形外科・整骨院(接骨院) ② 【授業形態】講義 【到達目標】 10 リハビリテーションについて説明できる
【授業単元】L8 内科2(バイタルサインの測定)① 【授業形態】講義 【到達目標】 3 バイタルサイン測定の語彙を使える患者にバイタルサインの測定について説明できる	【授業単元】L13 リハビリテーション1 【授業形態】講義 【到達目標】 11 関節可動域に関する語彙を知る リハビリテーション中、患者の状態を確認できる リハビリテーション中、患者に指示できる
【授業単元】L8 内科2(バイタルサインの測定)② 【授業形態】講義 【到達目標】 4 患者にバイタルサインの測定について説明できる 患者にバイタルサインの測定結果を説明できる	【授業単元】L14 リハビリテーション2 【授業形態】 【到達目標】 12 筋肉の名称を知る リハビリテーションプログラムを説明できる
【授業単元】L10 検査と処置 【授業形態】講義 【到達目標】 5 患者に検査と処置(の手順)について説明できる 検査中、患者に指示できる	【授業単元】 L17 処方せんと薬の説明 【授業形態】 【到達目標】 13 処方せんと薬の説明ができる
【授業単元】L11 救急患者 ① 【授業形態】講義 【到達目標】 6 事故と死傷者の情報を収集できる事故の被害者の状態と場所を確認できる	【授業単元】 復習 【授業形態】 【到達目標】 14 定期試験に向けて復習する
【授業単元】L11 救急患者 ② 【授業形態】講義 【到達目標】 7 救急サービスセンターにかかってきた電話に対応できる	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】 15 定期試験、解説
【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】 8 中間試験、解説	【評価について】 評価は、筆記試験で行う。授業内で学習した内容の定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。
【特記事項】 毎回、教科書を持参すること。また、講義において、ノートを丁寧にとること。	

科目名 (英)	情報科学 (Information Science)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	ブレーンスタッフコンサルタンツ	
		授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	前期	
学科・専攻	救急救命士科					曜日・時間		
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】								
滋慶学園グループの(株)ブレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施する。								
<学習内容>								
・コンピュータネットワーク環境の適切な利用を学ぶ ・PowerPointを利用して、聴衆者に訴求力のある効果的なスライドを作成できる								
【到達目標】								
・新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく活用できる ・PowerPointを利用し、効果的なスライドの作成ができる								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
滋慶学園グループの学生に必要なスキルに特化した、 オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用				e-learningテキストで操作方法を確認し、 操作を繰り返し練習してスキルを定着させる				
回 授業概要				回 授業概要				
1 【授業単元】 PCセットアップガイド 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 BYODのPCで講義を実施するための設定ができる (BYODのPCで受講しない学生は、設定方法を理解する)				9 【授業単元】 PowerPoint4(発表1) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 作成したスライドを使って発表できる(1)				
2 【授業単元】 CCT入門1 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 講座を受講する意義を理解し、PCの基本操作ができる				10 【授業単元】 PowerPoint4(発表2) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 作成したスライドを使って発表できる(2)				
3 【授業単元】 CCT入門2 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく上手に活用できる				11 【授業単元】 プレゼンテーション応用A 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 COUNTIF関数やピボットテーブルを使用したアンケート集計ができる				
4 【授業単元】 CCT入門3 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 Officeの基本操作ができる				12 【授業単元】 プレゼンテーション応用B 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 効率的なグラフの作成方法を理解し、活用できる				
5 【授業単元】 PowerPoint1(基本操作) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 プrezentーションソフトの基本操作ができる				13 【授業単元】 PowerPoint紙芝居 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 PowerPointを使用し、紙芝居を作成することができる				
6 【授業単元】 PowerPoint2(表現力を上げる) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 図形や画像を活用したスライドを作成できる				14 【授業単元】 PowerPoint試験対策 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 PowerPoint授業で習ったことを実践できる				
7 【授業単元】 PowerPoint3(動きを付ける) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 スライドに動きを付け、全てのスライドを完成できる				15 【授業単元】 PowerPoint試験 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 前期試験				
8 【授業単元】 PowerPoint 【授業形態】 【到達目標】 フォントや配色などを工夫して見やすいスライドに編集できる				【評価方法について】 評価は実技試験で行い、 授業内で説明した機能の理解、操作の定着度を確認する。 中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。				
【特記事項】								

科目名 (英)	生命・医学倫理	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	能登 誠
	(Medicinal Ethics)						前期
学科・コース	救急救命士科	授業形態	講義	総時間(単位)	15時間(1)	開講区分	曜日・時間

【授業の学習内容と心構え】

長年にわたり消防吏員・救急救命士として救命活動に従事し、消防学校教官として指導・教育を担当した教員が授業を行う。

これから始まる救急救命士としての学びを「人」、「社会」、「命」などさまざまな視点から捉え、生命・医学倫理について考えて行く。

救急救命士として、災害現場や救急現場で活動することを前提として、救うべき命とは何か、救急業務に従事する者に求められる医療倫理とは何かを具体的に考える。

【到達目標】

①救急救命士に必要な倫理感を身につけ、ヒトの命を救う大切を知識として身に付ける。

②生命倫理に関する歴史や位置づけを理解し、社会背景からの生命倫理を学ぶ。

【使用教科書・教材・参考書】

改訂10版 救急救命士標準テキスト

【授業外における学習】

回	授業概要	回	授業概要
1	<p>【授業単元】「ヒト」や「生命」について深く考え、その価値を知る。 【授業形態】講義 【到達目標】 ①「ヒト」とは何か ②「生命」とは何かを考える。</p>		<p>【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】</p>
2	<p>【授業単元】救急救命士の業務倫理を考える。 【授業形態】講義 【到達目標】 ①生命倫理に関する4つの原則 ②傷病者の権利を護る立場から ③救急救命士の業務倫理</p>		<p>【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】</p>
3	<p>【授業単元】インフォームドコンセントの定義を理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ①インフォームドコンセントの歴史 ②インフォームドコンセントの定義と必要性 ③救急事例でのインフォームドコンセントのやり方</p>		<p>【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】</p>
4	<p>【授業単元】中間試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】 これまでの習得状況を確認する。</p>		<p>【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】</p>
5	<p>【授業単元】これまでの理解度を確認する。 【授業形態】講義 【到達目標】 過去に国家試験に出題されている生命倫理に関する問題を実際に解いてみる。</p>		<p>【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】</p>
6	<p>【授業単元】「脳死」と「植物状態」の違いを理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ①「脳死」とは何か ②「臓器移植」とは何か ③「脳死」と「植物状態」の違い</p>		<p>【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】</p>
7	<p>【授業単元】事例検討 【授業形態】講義 【到達目標】 生命倫理に関係する記事等から、生命の大切さの理解を深める。</p>		<p>【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】</p>
8	<p>【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】 これまでの知識を確認する。</p>		<p>【評価について】 評価については、中間試験と定期試験の合計で行う。 適宜実施するミニテストも評価の対象とする。 中間試験(40点満点) 実施方法:筆記試験 定期試験(60点満点) 実施方法:筆記試験</p>
【特記事項】			

科目名 (英)	コミュニケーションスキル I (Skill of Communication I)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	伊藤 沙奈果						
							授業形態 講義・演習 総時間(単位) 15時間(1) 開講区分 曜日・時間 前期						
【授業の学習内容と心構え】													
東京都庁・横浜市等々、行政機関での登壇経験豊富な研修講師が、ビジネスの現場で求められるコミュニケーション・ビジネスマナーの講義を行う。授業では「わかる」⇒「できる」⇒「見える」を目指した学習の定着をはかる。まず、頭で「わかった」とこを、体で表現で「できる」ように実践練習をしていく。「できているつもり」「やっているはず」ではないませんから、周りから見てできているのが「見える」レベルを目指し、毎授業で定着をはかる。それができている人が集まっているからこそ、救急救命士科全体のコミュニケーション力に繋がり、皆で夢を叶えるための団結力に繋がる。													
【到達目標】													
①メディカルスタッフとしてはもちろん、社会人に必要な、マナー・コミュニケーション力を身につける。 ②その結果として「コミュニケーション・スキルアップ検定」の合格を目指す。													
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】									
コミュニケーションスキルアップ検定 テキスト													
回				回 授業概要									
1	【授業単元】基本的なマナー・コミュニケーションについて知る 【授業形態】講義・ワーク 【到達目標】 ①コミュニケーション・スキルアップ検定について知る ②科目の全体像の説明、グランドルール提示 ⇒ 理解する			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】									
2	【授業単元】自分を知る 相手を知る 【授業形態】講義・ワーク 【到達目標】 ①個性心理学を体験 ②基本マナーの習得(挨拶・表情・身だしなみ・立ち居振る舞い)			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】									
3	【授業単元】 基本的対話スキル ノンバーバルコミュニケーションの習得 【授業形態】講義・ワーク 【到達目標】 ①聞く、質問する、話すの基本的な考え方を知り、実践してみる ②自己表現ができる(自分のことを話す・発表) ③フィードバックの方法(全員で1人にフィードバック)を知り、実践してみる ④過去の問題を解く			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】									
4	【授業単元】人間関係を円滑にするスキルを身につける 【授業形態】講義・ワーク 【到達目標】 ①上手な頼み方、断り方について知る ②アサーティブコミュニケーションを知り、実践練習する ③過去の問題を解く			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】									
5	【授業単元】仕事上で必要な表現を知り、技術を身につける① 【授業形態】講義・ワーク 【到達目標】 ①仕事上で必要な表現技術の確認 「報告」「連絡」「相談」の実践練習で理解を深める コミュニケーションゲームの実施(実体験で難しさを知る) ②過去の問題を解く			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】									
6	【授業単元】仕事上で必要な表現を知り、技術を身につける② 【授業形態】講義・ワーク 【到達目標】 ①仕事上で必要な表現技術の確認 「報告・連絡・相談」復習、実践練習で理解を深める ②交渉・説得・プレゼンテーションの基本を知る ③過去の問題を解く			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】									
7	【授業単元】アンガーマネジメントについて知り、スキルを身につける 【授業形態】講義・ワーク 【到達目標】 ①ストレスケア—脳のメカニズムについて知る ②怒りの感情の扱い方、伝え方を知り、実践練習(健やかな学校生活のために) ③過去の問題を解く			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】									
8	【授業単元】定期試験、解答解説 【授業形態】講義・試験 【到達目標】 これまでの全ての知識を確認する コミュニケーションスキルアップ検定と同じ形式で問題を解く(範囲1-6回)			【評価について】 学則規定に準ずる									
【特記事項】													

科目名 (英)	コミュニケーションスキルⅡ (Skill of Communication Ⅱ)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	伊藤 沙奈果
		授業形態	講義・演習	総時間(単位)	15時間(1)	開講区分	前期
学科・コース	救急救命士科						
【授業の学習内容と心構え】							
東京都庁、横浜市等々、行政機関での登壇経験豊富な研修講師が、ビジネスの現場で求められるコミュニケーション・ビジネスマナーの講義を行う。授業では「わかる」⇒「できる」⇒「見える」を目指した学習の定着をはかる。まず、頭で「わかった」ことを、体で表現で「できる」ように実践練習をしていく。「できているつもり」「やっているはず」ではありませんから、周りから見てできているのが「見える」レベルを目指し、毎授業で定着をはかる。それができている人が集まっているからこそ、救急救命士科全体のコミュニケーション力に繋がり、皆で夢を叶えるための団結力に繋がる。							
【到達目標】							
①メディアルスタッフとしてはもちろん、社会人に必要な、マナー・コミュニケーション力を身につける。 ②その結果として「コミュニケーション・スキルアップ検定」の合格を目指す。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
コミュニケーションスキルアップ検定 テキスト							
回	授業概要	回	授業概要				
1	【授業単元】社会的スキル・マナーを身につける① 【授業形態】講義・ワーク 【到達目標】 ①敬語、ビジネスの言葉遣いを知り、使ってみる ②電話応対の仕方を知り、実践練習 ③接客・訪問の仕方を知る（名刺交換・紹介の仕方など） ④過去問題を解く		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
2	【授業単元】「サービスマインド」を知る 【授業形態】講義・ワーク 【到達目標】 ①基本的な姿勢としての気構えを知る（CS顧客満足・クレーム対応） ②事例研究（グループ討議・発表） ③過去の問題を解く		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
3	【授業単元】仕事上で必要な表現を知り、技術を身につける（実践編①） 【授業形態】講義・ワーク 【到達目標】 ①チームでのコミュニケーションの取り方を知り、身につける ②体験ゲームの実施		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
4	【授業単元】仕事上で必要な表現を知り、技術を身につける（実践編②） 【授業形態】講義・ワーク 【到達目標】 ①チームでのコミュニケーションの取り方を知り、身につける ②体験ゲームの実施		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
5	【授業単元】試験対策② 【授業形態】講義・ワーク 【到達目標】 コミュニケーション・スキルアップ検定試験 模擬テストをして試験に慣れる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
6	【授業単元】仕事上で必要な表現を知り、技術を身につける（実践編③） 【授業形態】講義・ワーク 【到達目標】 ①チームでのコミュニケーションの取り方を知り、身につける ②体験ゲームの実施		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
7	【授業単元】定期試験、検定対策 【授業形態】講義・ワーク 【到達目標】 コミュニケーション・スキルアップ検定試験 模擬テストをして試験に慣れる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
8	【授業単元】検定後フォローアップ 【授業形態】講義・ワーク 【到達目標】 ①チームでのコミュニケーションの取り方を知り、身につける ②体験ゲームの実施		【評価について】 学則規定に準ずる				
【特記事項】							

科目名 (英)	解剖学・生理学 (Anatomy and Physiology)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	高篠 智				
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	通年 水曜日 3~4時限				
【授業の学習内容と心構え】											
大学の法医学教室に勤務し、長きにわたり法医解剖実務や学生の講義を行い、また、学生の解剖学実習も指導してきた教員が、幅広い豊富な知識を有する救急救命士を養成するための講義を行う。人体の構造と生体の機能を中心に、救急救命士として遭遇するであろう疾患について講義する。また、遺体にも接することから、法医学教室勤務の経験を生かして、関連する法医学的な知識も加えて講義を行う。生命を尊重し、使命感をもって、人命救助にあたる救急救命士を育成するための講義を展開する。											
【到達目標】											
救急現場において人命を救助するために必要な人体の正常構造と機能を習得する。よく遭遇するであろう疾患について解剖生理学的に理解する。現場では遺体と接する可能性があるので、死体现象などの基礎的な法医学的事項を習得する。											
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】							
カラー図説 人体の正常構造と機能				始めて学ぶ学術用語が多量にあるために、試験前だけの学習では習得が困難である。したがって、毎回、授業前に配布されたプリントの予習を行い。授業後は必ず復習を行い理解して、重要事項を暗記する。							
回	授業概要	授業概要									
1・2	【授業単元】人体の概要・細胞の構造と機能 【授業形態】講義 【到達目標】基本的な人体の概要を理解する。人体の基本である細胞の構造と機能を理解して図示することができる。	【授業単元】筋系① 【授業形態】講義 【到達目標】人体を動かす骨格筋・心臓を構成する心筋・内臓を構成する平滑筋の構造と機能の違いを理解する。									
3・4	【授業単元】発生学 【授業形態】講義 【到達目標】人体が受精・分化・出産するまでの過程を理解する。	【授業単元】筋系② 【授業形態】講義 【到達目標】頭頸部や体幹にどのような筋があり、動きを司っているかを理解して名称を覚える。特に呼吸筋である肋間筋と横隔膜について説明することができる。									
5・6	【授業単元】組織学(上皮・結合) 【授業形態】講義 【到達目標】人体の器官形成の基礎である組織の種類・構造と機能を理解して、皮膚の構造を図示することができる。	【授業単元】筋系③ 【授業形態】講義 【到達目標】上肢と下肢について構成や働きなどを理解し、名称を覚えて、説明することができる。									
7・8	【授業単元】血液学 【授業形態】講義 【到達目標】救急救命士として最も重要な分野である循環器系の主役である血液について血液の種類と機能を理解し、名称を覚えて、説明することができる。	【授業単元】神経系① 【授業形態】講義 【到達目標】人体を支配する神経系について、神経組織の種類・構造と機能を理解し、名称を覚えて、説明することができる。									
9・10	【授業単元】免疫学 【授業形態】講義 【到達目標】人体を感染から守る免疫系について抗原や抗体などの基本的事項を理解し、名称を覚えて、説明することができる。	【授業単元】神経系② 【授業形態】講義 【到達目標】神経系の中核である脳と脊髄について構造と機能を理解し、名称を覚えて、説明することができる。									
11・12	【授業単元】骨格系① 【授業形態】講義 【到達目標】人体の最も基本である骨格系について骨組織の構造と機能、骨の種類と名称、動きの基本である関節の構造を理解し、説明することができる。	【授業単元】神経系③ 【授業形態】講義 【到達目標】人体に張り巡らされている末梢神経系である脳神経・脊髄神経・交感神経・副交感神経について種類・構造と機能を理解し、名称を覚えて、説明することができる。									
13・14	【授業単元】骨格系② 【授業形態】講義 【到達目標】人体を構成する頭蓋・脊柱・胸郭・骨盤の構造を理解し、名称を覚えて、説明することができる。特に、心臓マッサージを行なう胸郭の構造を図示することができる。	【授業単元】中間試験・終了後の解答解説 【授業形態】講義 【到達目標】各自における不正解の問題・分野について復習に確實に習得する。									
15・16	【授業単元】骨格系③ 【授業形態】講義 【到達目標】上肢と下肢の骨について構成や働きなどを理解し、名称を覚えて、説明することができる。	【評価について】評価は、筆記試験で行う。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点で評価する。ただし、授業態度が悪い者(私語、居眠りなど、携帯電話の使用など)、忘れ物が多い者などは減点され、評価に影響する可能性がある。									
【特記事項】授業に臨むにあたり、毎回、必ず教科書、配布プリントを持参する事。私語を慎み、集中して聴講する事。特に重要事項については必ずプリントに記入して暗記する事。											

科目名 (英)	解剖学・生理学 (Anatomy and Physiology)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	高篠 智				
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	120時間 (8)	開講区分 曜日・時間	通年 水曜日 3.4時間				
学科・コース	救急救命士科										
【授業の学習内容と心構え】											
大学の法医学教室に勤務し、長きにわたり法医解剖実務や学生の講義を行い、また、学生の解剖学実習も指導してきた教員が、幅広い豊富な知識を有する救急救命士を養成するための講義を行う。人体の構造と生体の機能を中心に、救急救命士として遭遇するであろう疾患について講義する。また、遺体にも接するこことから、法医学教室勤務の経験を生かして、関連する法医学的な知識も加えて講義を行う。生命を尊重し、使命感をもって、人命救助にあたる救急救命士を育成するための講義を展開する。											
【到達目標】											
救急現場において人命を救助するために必要な人体の正常構造と機能を習得する。よく遭遇するであろう疾患について解剖生理学的に理解する。現場では遺体と接する可能性があるので、死体现象などの基礎的な法医学的事項を習得する。											
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】							
カラー図説 人体の正常構造と機能				始めて学ぶ学術用語が多量にあるために、試験前だけの学習では習得が困難である。したがって、毎回、授業前に配布されたプリントの予習を行い。授業後は必ず復習を行い理解して、重要事項を暗記する。							
回	授業概要	授業概要									
31・32	【授業単元】 脈管系① 【授業形態】 講義 【到達目標】 救急救命士として最重要分野である脈管系について、その基本概念と全体像を理解し、血管の種類・構造と機能を理解し、名称を覚える。	【授業単元】 呼吸器系④ 【授業形態】 講義 【到達目標】 胸膜・縦隔の概念を理解する。呼吸のメカニズムについて理解し、説明することができる。									
33・34	【授業単元】 脈管系② 【授業形態】 講義 【到達目標】 人体が生命を維持するために最も重要な心臓について構造と機能を理解し、名称を覚えて、説明することができる。また、図示することができる。	【授業単元】 消化器系① 【授業形態】 講義 【到達目標】 消化器系の基本概念と全体像を理解し、消化器系の種類・構造と機能を理解し、名称を覚える。									
35・36	【授業単元】 脈管系③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 全身に張り巡らされている動脈系について、動脈の種類・構造と機能を理解して、名称を覚えて、説明することができる。	【授業単元】 消化器系② 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔・食道・胃・小腸・大腸・脾臍などについて構造と機能を理解し、名称を覚えて、説明することができる。									
37・38	【授業単元】 脈管系④ 【授業形態】 講義 【到達目標】 全身に張り巡らされている静脈系について、静脈の種類・構造と機能を理解して、名称を覚えて、説明することができる。	【授業単元】 消化器系③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 肝臍について構造と機能を理解し、名称を覚えて、説明することができる。									
39・40	【授業単元】 脈管系⑤ 【授業形態】 講義 【到達目標】 リンパ系・脾臍・胎児の循環系などについて基本的事項を理解し、名称を覚えて、説明することができる。	【授業単元】 泌尿器系・生殖器系 【授業形態】 講義 【到達目標】 泌尿器系と生殖器系について基本概念と全体像を理解し、泌尿器系の種類(腎臍・尿管・膀胱・尿道)・構造と機能を理解し、名称を覚える。男性生殖器と女性生殖器の構造と機能の違いを理解し、名称を覚える。									
41・42	【授業単元】 呼吸器系① 【授業形態】 講義 【到達目標】 脈管系に並び救急救命士として最重要分野である呼吸器系の基本概念と全体像を理解し、その構成と機能などについて理解し、説明することができる。	【授業単元】 感覚器系・内分泌系 【授業形態】 講義 【到達目標】 感覚器系の種類(皮膚・眼球・耳など)・構造と機能について理解し、名称を覚えて、説明することができる。内分泌系の種類(脳下垂体・甲状腺・副腎など)・構造と機能について理解し、名称を覚えて、説明することができる。									
43・44	【授業単元】 呼吸器系② 【授業形態】 講義 【到達目標】 鼻腔・咽頭・喉頭などについて構造と機能を理解し、名称を覚えて、説明することができる。また、構造を図示することができる。	【授業単元】 定期試験・終了後の解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 各自における不正解の問題・分野について復習に確實に習得する。									
45・46	【授業単元】 呼吸器系③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 気管・気管支・肺などについて構造と機能を理解し、名称を覚えて、説明することができる。また、構造を図示することができる。	【評価について】 評価は、筆記試験で行う。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点で評価する。ただし、授業態度が悪い者(私語・居眠りなど、携帯電話の使用など)、忘れ物が多い者などは減点され、評価に影響する可能性がある。									
【特記事項】 授業に臨むにあたり、毎回、必ず教科書、配布プリントを持参する事。私語を慎み、集中して聴講する事。特に重要事項については必ずプリントに記入して暗記する事。											

科目名 (英)	病理・微生物学 (Pathology & Microbiology)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	境野 高資 / 脇 雅子
学科・専攻	救急救命士科	授業形態	講義・演習	総時間(単位)	60時間(4)	開講区分 曜日・時間	後期 火・水曜日 1・2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
救急医・小児科医・麻酔科医として長きに渡り救急医療の臨床に携わってきた教員と、医学部や医療系専門学校で基礎医学の教育・研究に従事してきた医学博士の教員2名により、社会に貢献できる救急救命士を養成するため救急感染症学と病態生理学の専門的知識を習得するための授業を行う。救急救命士としてあらゆる傷病者・あらゆる疾病へ迅速に対応できるようになるため履修・修了が必須の講義であることを理解し、意欲をもって授業に臨んで欲しい。受講前には救急救命士標準テキストの該当部分を必ず熟読し、授業後はしっかりと復習すること。							
【到達目標】							
各種の救急疾病における病態生理を理解する。病院前救護の疾病や外傷の基礎を学ぶ。病院前での確実な感染対策が実施できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
改訂第10版 救急救命士標準テキスト (へるす出版)				講義前に救急救命士標準テキストの該当部分を必ず熟読しておくこと。また講義後はしっかりと復習をして知識を確実なものにしておくこと。不明点は休み時間や放課後等を利用して積極的に質問に来ること。			
回	授業概要	回	授業概要				
1・2	【授業単元】(9/19) 成長と発達・老化(境野) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】配布資料、改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.134～138, 658～664 ヒトの発生と成長・発達・発育の定義を理解する。老化を理解する。	解説・17	【授業単元】(11/14) 先天性疾患・奇形、中間試験の解説(境野) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.166, 582, 640～641 様々な先天性疾患・奇形について学び理解する。中間試験問題の解説を確認し、全ての問題を詳細に解説できるようになる。病理・微生物学分野の国家試験に備える。※中間試験問題を持参すること。				
3・4	【授業単元】(9/26) 疾患(脇) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.164～169 疾患の原因、発症と経過、回復、予防について理解する。	解説・18	【授業単元】(11/28) 代謝・内分泌・栄養①、中間試験の解説(脇) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.139～142 内分泌系の解剖学・生理学について復習並びに学習する。中間テスト問題の解説を確認し、全ての問題を詳細に解説できるようになる。病理・微生物学分野の国家試験に備える。※中間試験問題を持参すること。				
5・6	【授業単元】(10/3) 細胞障害(境野) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.170～173 細胞障害の原因と変化について理解する	19・20	【授業単元】(12/5) 代謝・内分泌・栄養②(脇) 【授業形態】講義 【到達目標】改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.159～162, 604～611 内分泌系の解剖学・生理学について復習並びに学習する。内分泌異常について学び、各疾患について理解する。糖質・脂質・蛋白質の代謝障害、ビタミンの異常、体液と電解質異常、酸塩基平衡について理解する。				
7・8	【授業単元】(10/10) 感染①(脇) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.177～180, 635～637 各種の病原微生物と感染症について知る。適切な感染対策を実施できる。	21・22	【授業単元】(12/12) 代謝・内分泌・栄養③(脇) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10版 救急救命士標準テキスト P. 612～616 内分泌系の解剖学・生理学について復習並びに学習する。内分泌異常について学び、各疾患について理解する。糖質・脂質・蛋白質の代謝障害、ビタミンの異常、体液と電解質異常、酸塩基平衡について理解する。				
9・10	【授業単元】(10/17) 炎症(境野) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.174～176 炎症の定義と原因、分類について理解する。局所の炎症と全身の炎症を知る。	23・24	【授業単元】(12/19) 腫瘍(境野) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.186～190 腫瘍の分類を知り、悪性腫瘍の病態生理や診断・治療につき理解する。				
11・12	【授業単元】(10/24) 感染②(脇) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.282～293 感染予防策・感染防御が実施できる。資機材の洗浄・消毒を理解する。感染事故等の発生時の対応ができる	25・26	【授業単元】(1/9) 死(脇) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.194～199 死の概念を確認し死体现象を理解する。死に関わる手続きを理解し、御遺体への尊厳を保つ。				
13・14	【授業単元】(10/31) 循環障害(境野) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.181～185 循環障害の分類とその定義について理解する。	27・28	【授業単元】(1/16) 損傷と治癒(境野) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10版 救急救命士標準テキスト P. 159～162, 604～616 損傷と治癒の過程を理解し、2年生で履修する外傷救急医学の基礎とする。				
15・16	【授業単元】(11/7) 中間試験(常任) 【授業形態】演習 【到達目標】 中間試験 国家試験方式で実施する中間テストにより、第1回～第14回で学んだ病理・微生物学についての知識を再確認する。		※ 29回以降のシラバスは次ページに記載 【評価方法について】 出席率、授業態度、プレテスト・小テスト、宿題やレポート課題等により、学年成績の20%、中間試験により学年成績の20%を評価し、これらを合算して中間評価(40%)とする。定期試験により学年成績の60%を評価する。				
【特記事項】							
遅刻・欠席はせず、各授業前のテキスト熟読と授業後の復習を行うこと。曖昧な点があれば、そのままにせず積極的に質問に来ること。							

科目名 (英)	病理・微生物学 (Pathology & Microbiology)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	境野 高資 / 脇 雅子						
		授業形態	講義・演習	総時間(単位)	60時間(4)	開講区分 曜日・時間	後期 火・水曜日	1・2限					
学科・専攻	救急救命士科												
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】													
救急医・小児科医・麻酔科医として長きに渡り救急医療の臨床に携わってきた教員と、医学部や医療系専門学校で基礎医学の教育・研究に従事してきた医学博士の教員2名により、社会に貢献できる救急救命士を養成するため救急感染症学と病態生理学の専門的知識を習得するための授業を行う。救急救命士としてあらゆる傷病者・あらゆる疾病へ迅速に対応できるようになるため履修・修了が必須の講義であることを理解し、意欲をもって授業に臨んで欲しい。受講前には救急救命士標準テキストの該当部分を必ず熟読し、授業後はしっかりと復習すること。													
【到達目標】													
各種の救急疾病における病態生理を理解する。病院前救護の疾病や外傷の基礎を学ぶ。病院前での確実な感染対策が実施できるようになる。													
【使用教科書・教材・参考書】													
改訂第10版 救急救命士標準テキスト (へるす出版)													
【授業外における学習】													
講義前に救急救命士標準テキストの該当部分を必ず熟読しておくこと。また講義後はしっかりと復習をして知識を確実なものにしておくこと。不明点は休み時間や放課後等を利用して積極的に質問に来ること。													
回				回									
授業概要				授業概要									
29・30													
【授業単元】(1/23) 感染③(脇) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.637-643, 654 各感染症の一般的微候を列挙できるようにし、感染症法の目的・分類についても理解する。													
試験 解説													
【授業単元】(1/30)期末試験と解説(脇/境野) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ※ 1・2限にテスト実施、3・4限で解説を行う。国家試験方式で実施する定期試験により、第1回～第30回で学んだ病理・微生物学についての知識を再確認する。問題の解説を確認し、全ての問題を詳細に解説できるようになる。													
【評価方法について】 前頁参照													
【特記事項】 前頁参照													

科目名 (英)	生化学 (Biochemistry)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	野村 利明		
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 3・4時限		
【授業の学習内容と心構え】 消防機関における消防・救急業務において、救急救命士として実務・事務に携わり、看護師資格を有する教員が、生命現象である細胞の営み(代謝)およびその異常を、分子レベルで解説する。救命士による救護活動が、分子レベルで生命活動をどうサポートしているのかを理解し、自信を持って行動する原動力としてほしい。また、この単元で取り上げる細胞構造、恒常性維持、代謝は、今後病態生理や外傷、疾患、治療、救護活動を理解するうえで基本となる事柄であるため、用いられる言葉の意味を完全に理解できるように何度も確認をしていきたい。									
【到達目標】 ①同化・異化の概念を用いて、体内での様々な代謝(エネルギー代謝、骨代謝など)を説明することができる。 ②代謝を円滑にするための内部環境と、内部環境を維持するためのしくみ(神経性調節・液性調節)について説明することができる。 ③代謝を円滑にする触媒としての酵素、補酵素としてのビタミンの働きについて説明できる。									
【使用教科書・教材・参考書】 「はじめの一歩イラスト生化学・分子生物学」第3版 「改訂第9版 救急救命士標準テキスト上巻」				【授業外における学習】 テキスト内の言葉の完全理解をめざすため、言葉の意味をわかるまで何度も反復確認してほしい。					
回	回	授業概要							
1	【授業単元】生化学を学ぶための基礎知識 【授業形態】講義 【到達目標】 ①生化学の基礎知識(生化学の目的、元素記号、分子記号、酸・塩基・イオン)について説明できる。 ②細胞の構造(細胞膜・細胞質・核・細胞小器官)と機能を説明できる。	9	【授業単元】ホルモンの働き 【授業形態】講義 【到達目標】 ①内分泌と外分泌の違いを説明できる。 ②ホルモンの種類と、働き(神経性調節との比較)を説明できる。 ③臍臓・副腎皮質・甲状腺・上皮小体ホルモンの働きを説明できる。						
2	【授業単元】代謝の概要 【授業形態】講義 【到達目標】 ①代謝(同化・異化)の定義を説明できる。 ②同化・以下の具体例を示すことができる。 ③消化・吸収と体内での合成を、「同化・異化」を用いて説明できる。	10	【授業単元】血液の働きと血液浄化 【授業形態】講義 【到達目標】 ①運搬蛋白としてのヘモグロビンの働きを説明できる。 ②防御タンパクとしての抗体の働きを説明できる。 ③腎臓での血液浄化の概要を説明できる。						
3	【授業単元】内部環境の維持 【授業形態】講義 【到達目標】 ①内部環境がなぜ一定であるのかその意味を説明できる。 ②血液成分の概要と、血漿の電解質組成を説明できる。 ③細胞内外の電解質組成と活動電位の関係について説明できる。	11	【授業単元】糖質代謝異常 【授業形態】講義 【到達目標】 ①インスリンの作用を踏まえ、糖尿病について説明できる。 ②糖尿病の三大合併症と大血管障害について説明できる。 ③ケトアシドーシスと高浸透圧高血糖症候群のメカニズムを説明できる。						
4	【授業単元】糖質代謝 【授業形態】講義 【到達目標】 ①分子量の順に糖質の種類を並べることができる。 ②血糖値が維持されている意義を説明できる。 ③グリコーゲンの合成と分解、糖新生について説明できる。	12	【授業単元】脂質代謝異常・核酸代謝異常・骨代謝異常 【授業形態】講義 【到達目標】 ①脂質異常と動脈硬化との関係を説明できる。 ②核酸代謝異常にについて説明できる。 ③Ca代謝を踏まえて骨粗鬆症を説明できる。						
5	【授業単元】蛋白質代謝・核酸代謝 【授業形態】講義 【到達目標】 ①分子量の順に蛋白質を並べることができる。 ②蛋白質の役割(酵素・ホルモン・収縮・輸送・防御・構造)を簡単に説明できる。 ③核酸代謝について簡単に説明できる。	13	【授業単元】酸・塩基平衡異常 【授業形態】講義 【到達目標】 ①体液の至適PHの理由を説明できる。 ②肺・腎調節、重炭酸緩衝系について説明できる。 ③呼吸性アシドーシスと代謝性アシドーシスの概要を説明できる。						
6	【授業単元】脂質代謝 【授業形態】講義 【到達目標】 ①体内の代表的な脂質を3つ挙げることができる。 ②脂肪酸のエネルギー代謝経路を説明できる。 ③糖質不足時のケトン体蓄積について説明できる。	14	【授業単元】内分泌異常 【授業形態】講義 【到達目標】 ①甲状腺機能亢進症・低下症について説明できる。 ②急性副腎不全・褐色細胞腫について説明できる。 ③尿崩症について説明できる。						
7	【授業単元】6回までの知識の確認 【授業形態】講義 【到達目標】 中間試験、解答解説	15	【授業単元】理解度判定と評価 【授業形態】 【到達目標】 定期試験						
8	【授業単元】ビタミンとミネラル 【授業形態】講義 【到達目標】 ①ビタミンを水溶性と脂溶性とに分類することができる。 ②ビタミンの主な役割を2つ挙げることができる。 ③ビタミン不足(A、D、K、C、B1、B12)による障害について説明できる。	【評価について】 評価は筆記試験で行う。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。授業への参加度を加算する場合もある。評価は学則規定に準ずる。							
【特記事項】 できるだけ遅刻や欠席はしないこと。学生の講義への参加度は評価の参考とする。									

科目名 (英)	薬理学 (Pharmacology)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	野村 利明	
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 3・4時限	
【授業の学習内容と心構え】								
消防機関における消防・救急業務において、救急救命士として実務・事務に携わり、看護師資格を有する教員が、近年の薬物療法の進歩と、投与経路に応じた薬物動態、薬理作用と有害事象など、薬理学の基本を示す。また、救急患者が使用する頻度の高い薬物や、救命士に使用が許可されている薬物について具体的に解説する。薬理学は生化学上の発見と共に進歩してきたため、生化学で学んだ内容を振り返りながら講義を進めたい。講義で用いる言葉は、その意味を完全に理解できるように指導したい。								
【到達目標】								
①薬理学を説明するための専門用語を正しく使うことができる。 ②救急救命士が使用を許可されている、乳酸リングル液、アドレナリン、エピペン、50%ブドウ糖の薬理作用、適用、投与方法、評価方法について説明できる。 ③傷病者の使用頻度が高い薬物(経口糖尿病薬・インスリン・抗精神病薬・降圧剤・抗生素質・抗ウイルス薬の作用、適用、有害作用、抗凝固薬等)について説明できる。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
資料は毎回配布する。「生化学」で用いたテキストと資料を持参すること。				テキスト内の言葉の完全理解をめざすため、言葉の意味をわかるまで何度も反復確認してほしい。				
回	授業概要	回	授業概要					
1	【授業単元】薬理学の歴史と発展・薬理作用 【授業形態】講義 【到達目標】 ①医療用医薬品・一般医薬品の違いを説明できる。 ②薬物の使用目的を4つ説明できる。 ③薬物の標的を4つ説明できる。	9	【授業単元】使用頻度の高い薬②降圧剤・亜硝酸薬・シルデナフィル 【授業形態】講義 【到達目標】 ①昇圧の仕組みを踏まえて降圧剤を大きく3つに分類できる ②狭心症治療薬(硝酸薬・Ca拮抗薬・β遮断薬)について説明できる ③シルデナフィルの有害事象について説明できる					
2	【授業単元】薬物動態 【授業形態】講義 【到達目標】 ①「吸收」「代謝」「分布」「排泄」の意味を説明できる。 ②投与経路に応じた薬物動態を説明できる。 ③投与経路と作用発現時間との関係を説明できる。	10	【授業単元】使用頻度の高い薬③抗精神病薬・気分障害治療薬など 【授業形態】講義 【到達目標】 ①定型・非定型抗精神病薬の有害事象を説明できる。 ②悪性症候群について説明できる。 ③セロトニン症候群について説明できる。					
3	【授業単元】薬物相互作用・薬効の個人差 【授業形態】講義 【到達目標】 ①薬物動態に影響を及ぼす要因について、「吸收」「代謝」「分布」「排泄」ごとに説明できる。 ②薬物との間で相互作用を起こしやすい食品を3つ挙げることができる	11	【授業単元】使用頻度の高い薬④抗菌薬・抗ウイルス薬・感冒薬など 【授業形態】講義 【到達目標】 ①細菌の増殖過程を踏まえた抗菌薬の薬理作用を説明できる。 ②ウイルスの増殖過程を踏まえた抗ウイルス薬の薬理作用を説明できる ③菌交代現象や耐性菌の定義を説明できる。					
4	【授業単元】薬物の有益性と危険性 【授業形態】講義 【到達目標】 ①用量反応曲線と用量致死曲線の見方を説明できる。 ②薬物の有害作用(アレルギー・腎毒性・肝毒性・発がん性・催奇形性)について説明できる。	12	【授業単元】使用頻度の高い薬⑤喘息治療薬・抗血小板薬・抗凝固薬など 【授業形態】講義 【到達目標】 ①喘息治療における長期管理薬と発作治療薬を説明できる ②抗血小板薬と抗凝固薬の適応となる疾患病を説明できる ③抗血小板薬と抗凝固薬の有害作用を説明できる					
5	【授業単元】医薬品 【授業形態】講義 【到達目標】 ①毒薬・劇薬・麻薬・抗精神病薬の定義を言える。 ②毒薬・劇薬・麻薬の管理方法を説明できる。 ③添付文書の記載事項と確認方法を説明できる	13	【授業単元】使用頻度の高い薬⑥副腎皮質ステロイド・輸液/血液製剤 【授業形態】講義 【到達目標】 ①副腎皮質ステロイドの適用を説明できる。 ②ステロイドの長期大量投与による有害事象について説明できる。 ③輸血成分製剤の特徴と、有害事象について説明できる。					
6	【授業単元】救急処置に用いられる薬剤 【授業形態】講義 【到達目標】 ①アドレナリンとエピペンの薬理作用・適用・投与方法を説明できる。 ②乳酸リングル液の組成・適用・投与方法を説明できる。 ③50%ブドウ糖の適用・投与方法を説明できる。	14	【授業単元】使用頻度の高い薬⑦消毒薬と薬品管理 【授業形態】講義 【到達目標】 ①微生物の種類を消毒薬へ抵抗の強い順に並べられる ②高水準・中水準・低水準消毒薬の代表例を1つづつ示すことができる ③ノロウイルス・結核菌・インフルエンザに適した消毒薬を選ぶことができる					
7	【授業単元】6回までの知識の確認 【授業形態】講義 【到達目標】 中間試験、解答解説	15	【授業単元】理解度判定と評価 【授業形態】 【到達目標】 定期試験					
8	【授業単元】使用頻度の高い薬①経口糖尿病薬・インスリン 【授業形態】講義 【到達目標】 ①代表的な経口糖尿病薬の作用・適用・有害事象について説明できる ②インスリンの種類・適用・投与方法について説明できる。 ③血糖値と自覚・他覚症状との関係を説明できる。	【評価について】 評価は筆記試験で行う。薬理学の知識だけでなく、生化学に関する知識も問う。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。授業への参加度を加算する場合もある。評価は学則規定に準ずる。						
【特記事項】				できるだけ遅刻や欠席はしないこと。学生の講義への参加度は評価の参考とする。				

科目名 (英)	医学概論 I (Introduction to Medicine I)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	能登 誠
学科・コース	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分	前期
【授業の学習内容と心構え】							
長年にわたり消防吏員・救急救命士として救命活動に従事し、消防学校教官として指導・教育を担当した教員が授業を行う。 救急救命士とは何か。目指すべき資格と社会背景を捉え、日々の学びがどのように繋がるのかを自ら考え、深めていきましょう。							
①救急救命士の役割と責任、法的な役割を理解し、救急救命士としての自覚を持つ。 ②救急を取り巻く現況を学び、病院前から病院、災害時の医療体制を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 改定10版 救急救命士標準テキスト				【授業外における学習】			
回	授業概要	回	授業概要				
1	【授業単元】消防機関における救急活動の流れ 【授業形態】講義 【到達目標】救急業務の仕組みと現状を理解する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
2	【授業単元】救急医療体制 傷病者を医療機関に収容するための仕組み 【授業形態】講義 【到達目標】救急医療の実際と取り巻く現状を理解する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
3	【授業単元】救急医療体制 病院前医療体制の現状 【授業形態】講義 【到達目標】応急救護体制・病院前医療体制の現状を理解する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
4	【授業単元】中間試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】これまでの学習を確認し、理解を深める。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
5	【授業単元】救急活動時のコミュニケーション 【授業形態】講義 【到達目標】救急救命士と傷病者の関係について理解を深める。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
6	【授業単元】救急救命士に関連する法令 【授業形態】講義 【到達目標】救急救命士として必要な法令の理解と、医療を取り巻く環境に関する法律を学ぶ。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
7	【授業単元】 救急救命士の役割と責任・救急業務としての活動を振り返る。 【授業形態】講義 【到達目標】救急救命士としての自覚を再確認する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
8	【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】ここまで学んだ知識を再確認し、理解を深める。		【評価について】 評価については、中間試験と定期試験の合計で行う。 適宜実施するミニテストも評価対象とする。 中間試験(40点満点) 実施方法:筆記試験 定期試験(60点満点) 実施方法:筆記試験				
【特記事項】							

科目名 (英)	医学概論Ⅱ (Introduction to Medicine Ⅱ)	必修選択	必修 授業形態 講義	年次 総時間(単位) 1年 (1)	1年 15時間 (1)	担当教員 開講区分 曜日・時間	能登 誠 前期						
		授業形態 講義											
【授業の学習内容と心構え】													
長年にわたり消防吏員・救急救命士として救命活動に従事し、消防学校教官として指導・教育を担当した教員が授業を行う。目指すべき職業像を捉え救急現場で求められる要素は何か?その為に何を学び実行できるようにならねばならないのか?探っていきましょう。													
【到達目標】				【授業外における学習】									
①災害医療体制、安全管理、事故時の対応を学び、必要最低限の自己管理について理解する。 ②救急活動時のリスクマネージメント、傷病者、家族、関係する人達とのコミュニケーション、自己のストレスについて学び、救急業務を遂行するまでの影響を理解する。													
【使用教科書・教材・参考書】 改訂10版 救急救命士標準テキスト				【授業外における学習】									
回	授業概要			回	授業概要								
1	授業単元】災害医療体制① 【授業形態】講義 【到達目標】災害時の対応について学ぶ。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
2	【授業単元】災害医療体制② 【授業形態】講義 【到達目標】災害時の対応について学ぶ。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
3	【授業単元】安全管理と事故対応 【授業形態】講義 【到達目標】災害時の対応について学ぶ。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
4	【授業単元】中間試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】ここまで学んだ知識を整理する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
5	【授業単元】感染対策 【授業形態】講義 【到達目標】リスクマネージメントで安心・安全を徹底して身につける。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
6	【授業単元】ストレスに対するマネジメント 【授業形態】講義 【到達目標】ストレスの概念と対応について学ぶ。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
7	【授業単元】救急救命士の生涯教育 【授業形態】講義 【到達目標】救急救命士の生涯教育について学ぶ。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
8	【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】これまでに学んできた知識を整理し、理解を深める。				【評価について】 評価については、中間試験と定期試験の合計で行う。 適宜実施するミニテストも評価の対象とする。 中間試験(40点満点) 実施方法:筆記試験 定期試験(60点満点) 実施方法:筆記試験								
【特記事項】													

科目名 (英)	検査・感染 (Inspection and Infection)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	能登 誠
		授業形態	講義	総時間(単位)	15時間 (1)	開講区分	前期
学科・コース	救急救命士科					曜日・時間	
【授業の学習内容と心構え】							
長年に渡り、消防吏員・救急救命士として救命活動に従事し、消防学校教官として指導・教育を担当した教員が授業を行う。 ①傷病者や家族等への説明、医療機関との連携時に最低限必要となる検査の知識を整理し理解する。②活動環境下での自分自身、隊行動の安全を守りつつ傷病者に対応するための感染に関する最低限の知識を整理する。							
【到達目標】							
①医療機関における検査の目的と主な緊急検査について説明できるようになる。 ②感染症の種類とその予防について整理する。							
【使用教科書・教材・参考書】 改訂10版 救急救命士標準テキスト				【授業外における学習】			
回	授業概要	回	授業概要				
1	【授業単元】 感染対策 【授業形態】 講義 【到達目標】 感染対策について理解する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
2	【授業単元】 感染症の種類と予防 【授業形態】 講義 【到達目標】 感染症の種類と予防について理解する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
3	【授業単元】 減菌・消毒の違い 【授業形態】 講義 【到達目標】 減菌・消毒の違いを知る。消毒区分と消毒薬を理解する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
4	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 これまでの知識を整理する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
5	【授業単元】 検査の目的・役割・種類 【授業形態】 講義 【到達目標】 検査の目的・役割を理解する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
6	【授業単元】 緊急検査の目的、種類 【授業形態】 講義 【到達目標】 緊急検査を理解する。緊急検査の種類を理解する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
7	【授業単元】 正常心電図 【授業形態】 講義 【到達目標】 正常心電図を理解する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 これまで学んだ知識を整理し、理解を深める。		【評価について】 評価については、中間試験と定期試験の合計で行う。 適宜実施するミニテストも評価の対象とする。 中間試験(40点満点) 実施方法:筆記試験 定期試験(60点満点) 実施方法:筆記試験				
【特記事項】							

科目名 (英)	放射線医学	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	坂本 肇
	(Outline of Radiology)	授業形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 2時限
【授業の学習内容と心構え】							
大学病院での放射線診療における臨床経験と第1種放射線取扱主任者としてラジオアイソトープや放射線治療装置などの放射線管理を長年経験した教員により、放射線の種類や特徴などの基礎的事項、放射線の利用や医学分野への応用事例、放射線による人体への影響、放射線の防護と安全管理を習得する授業を行う。放射線事故の発生時に応対するためには、正しい知識を身につけることが重要となるので、基礎的な要点を理解してほしい。							
【到達目標】							
放射線の種類、性質、特徴について習得し、単位と線量を理解する。また、放射線の利用と医学への応用、放射線による人体への影響を理解し、放射線防護を実践するために必要な知識を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
テキスト1、5版 やさしい放射線とアイソトープ(日本アイソトープ協会、丸善) テキスト2、救急救命士ステップアップ9下巻(へるす出版)							
回 授業概要				回 授業概要			
1	【授業単元】 放射線の基礎(1)	【授業形態】 講義	【到達目標】	【授業単元】	【授業形態】	【到達目標】	
	放射線医学概論授業の概要について説明する。また、放射線と放射能の違いについて、放射線の種類(X線、α線、β線、中性子線)について理解する。						
	【授業単元】 放射線の基礎(2)	【授業形態】 講義	【到達目標】	【授業単元】	【授業形態】	【到達目標】	
	放射線の種類(X線、α線、β線、中性子線)による特徴と物質との相互作用について理解する。						
	【授業単元】 放射線の基礎(3)	【授業形態】 講義	【到達目標】	【授業単元】	【授業形態】	【到達目標】	
	放射線の量と単位について理解し、線量と人体への影響について説明できる。						
	【授業単元】 放射線の医学利用	【授業形態】 講義	【到達目標】	【授業単元】	【授業形態】	【到達目標】	
	放射線は色々な分野に利用されていることを理解し、特に、医療分野では、X線診断、核医学検査、放射線治療に有効活用されていることを理解する。						
2	【授業単元】 放射線の人体影響	【授業形態】 講義	【到達目標】	【授業単元】	【授業形態】	【到達目標】	
	放射線による人体への影響である、急性影響、晩発影響、身体的影響、遺伝的影響などの特徴を理解し、外部被ばくや内部被ばく、全身被ばくや局所被ばくなどの被ばくの形態を説明できる。						
3	【授業単元】 放射線防護(1)	【授業形態】 講義	【到達目標】	【授業単元】	【授業形態】	【到達目標】	
	放射線による事故への対応として、放射線防護の基本的な方法を理解し、外部被ばくと内部被ばくに対する防護を説明できる。						
4	【授業単元】 放射線防護(2)	【授業形態】 講義	【到達目標】	【授業単元】	【授業形態】	【到達目標】	
	放射線による事故時に必要な線量測定の基礎、養生や汚染検査、傷病者への対応などを理解する。						
5	【授業単元】 定期試験、解答解説	【授業形態】 講義	【到達目標】	【評価について】	評価は、筆記試験で行う。授業内で説明した内容の理解度を確認する。 筆記試験は授業内での小テスト(40点)と定期試験(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。		
	放射線の種類や特徴を理解し、放射線を伴う事故時の放射線防護の実践能力に繋がる基礎を理解する。						
【特記事項】							

科目名 (英)	観 察 (Observation)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	渥美 栄一
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期

【授業の学習内容と心構え】

消防機関における消防・救急業務において、救急救命士として実務・事務に携わり、他の教育機関においても広く教育活動に携わってきた教員が、現場活動時における重症度・緊急度に応じた適切な処置を実施すると共に、最適な医療機関へ搬送するための観察知識の基礎力・応用力を養う。
救急救命士として、様々な処置を実施するためには、確実・迅速な観察結果から得た明確な根拠が必要であり、不十分な観察は傷病者の生命・機能予後に直結することを理解する必要がある。

【到達目標】

- ・通報内容等、傷病者に接触する前から得られる情報に基づき、疑われる病態を推測できる。
- ・傷病者や状況から得られた観察結果に基づき、重症度・緊急度を判断し、最適な医療機関の選定ができる。
- ・確実かつ迅速な観察に基づき、必要な処置の判断ができる。

【使用教科書・教材・参考書】

- ・救急救命士標準テキスト
- ・ビジュアルノート

【授業外における学習】

テキスト該当範囲における不明な語句、文章及び資料は予め調べて授業に臨むこと。また、各小テストの復習を都度と行うこと。

回	授業概要	回	授業概要
1	<p>【授業単元】観察</p> <p>【授業形態】講義、小テスト</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察の目的と意義を理解し、説明できる。 ・バイタルサインの正常値を覚え、説明できる。 	9	<p>【授業単元】資器材による観察</p> <p>【授業形態】講義、小テスト</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SpO2の仕組みを理解し、使用方法を説明できる。 ・カブノメータの仕組みを理解し、使用方法を説明できる。 ・聴診器の仕組みを理解し、使用方法を説明できる。 ・血圧計の仕組みを理解し、使用方法を説明できる。
2	<p>【授業単元】観察、現場観察の基本</p> <p>【授業形態】講義、小テスト</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察の方法と種類を説明できる。 ・状況評価を理解し、説明できる。 ・初期評価を理解し、説明できる。 	10	<p>【授業単元】資器材による観察</p> <p>【授業形態】講義、小テスト</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心電図の仕組みを理解し、使用方法を説明できる。
3	<p>【授業単元】現場観察の基本</p> <p>【授業形態】講義、小テスト</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身観察と重点観察を理解し、説明できる。 ・継続観察と詳細観察を理解し、説明できる。 	11	<p>【授業単元】資器材による観察</p> <p>【授業形態】講義、小テスト</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体温計の仕組みを理解し、使用方法を説明できる。 ・血糖測定器の仕組みを理解し、使用方法を説明できる。
4	<p>【授業単元】全身状態の観察</p> <p>【授業形態】講義、小テスト</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外見観察を理解し、説明できる。 ・気道に関する観察を理解し、説明できる。 ・呼吸に関する観察を理解し、説明できる。 	12	<p>【授業単元】緊急度・重症度判断</p> <p>【授業形態】講義、小テスト</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重症度と緊急度の違いを理解し、説明できる。 ・重症度と緊急度の分類を理解し、説明できる。
5	<p>【授業単元】全身状態の観察、局所の観察</p> <p>【授業形態】講義、小テスト</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環に関する観察を理解し、説明できる。 ・神経に関する観察を理解し、説明できる。 	13	<p>【授業単元】緊急度・重症度判断</p> <p>【授業形態】講義、小テスト</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重症度、緊急度判断の基準を理解し、観察アルゴリズムに則り説明できる。
6	<p>【授業単元】局所の観察</p> <p>【授業形態】講義、小テスト</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皮膚に関する観察を理解し、説明できる。 ・頭部、顔面、頸部に関する観察を理解し、説明できる。 ・胸部、背部に関する観察を理解し、説明できる。 ・腹部に関する観察を理解し、説明できる。 	14	<p>【授業単元】定期試験</p> <p>【授業形態】試験</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験レベルの問題を解くことができる。 ・文章/表/図などを用いて記述問題を解くことができる。
7	<p>【授業単元】局所の観察</p> <p>【授業形態】講義、小テスト</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鼠蹊部、会陰部に関する観察を理解し、説明できる。 ・骨盤に関する観察を理解し、説明できる。 ・四肢に関する観察を理解し、説明できる。 ・手指、足趾、爪に関する観察を理解し、説明できる。 	15	<p>【授業単元】定期試験解答・解説</p> <p>【授業形態】講義、口頭試問</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の分からない点を解消できる。 ・設問や選択肢について説明ができ、質問に答えることができる。
8	<p>【授業単元】局所の観察</p> <p>【授業形態】講義、小テスト</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種病態の観察アルゴリズムを理解し、説明できると共に、処置を含めた活動に繋げるイメージをもてる。 		<p>【評価について】</p> <p>小テスト、中間試験、定期試験で100点満点の総合評価とする。 但し、遅刻及び欠席を加味し、上記から減点を行うものとする。</p> <p>小テスト 中間試験(国家試験形式) 定期試験(国家試験形式)</p> <p>評価方法は学則規定に準ずる。</p>
【特記事項】			

科目名 (英)	処置論 (Medical Treatment)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	渥美 栄一	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 (3)	開講区分	後期	
【授業の学習内容と心構え】 消防機関における消防・救急業務において、救急救命士として実務・事務に携わり、他の教育機関においても広く教育活動に携わってきた教員が、観察から「緊急性度・重症度」を考慮した処置の基本的な手技を理解するとともに、処置の適応や禁忌、合併症をしっかりと理解した上で活動できる知識を身につける。								
【到達目標】 1. 救急救命士が行う救急救命処置に関する知識を学び、シミュレーション実習で技術を学び現場で活用できる手技のための基礎を固める。 2. 救急現場での処置に必要な救急資器材の取り扱い、適応と禁忌・合併症と各処置に関する注意事項を理解する。								
【使用教科書・教材・参考書】 ・救急救命士標準テキスト		【授業外における学習】 テキスト該当範囲における不明な語句、文章及び資料は予め調べて授業に臨むこと。また、各小テストの復習を都度と行うこと。						
回	授業概要	回	授業概要					
1	【授業単元】処置の目的と意義 気道確保 【授業形態】講義 【到達目標】 ●傷病者を救うためにどのような活動が必要かを理解する。 ●用手的気道確保の方法と手順、注意点を理解する。	9	【授業単元】胸骨圧迫 【授業形態】講義 【到達目標】 ●成人・小児・乳児に対する胸骨圧迫を理解する。 ●胸骨圧迫の合併症を理解する。 ●自動式心マッサージ器の種類を学ぶ。					
2	【授業単元】気道確保 【授業形態】講義 【到達目標】 ●用手的・エアウェイを用いた気道確保の手技及び適応と禁忌を理解する。	10	【授業単元】除細動 【授業形態】講義 【到達目標】 ●除細動の目的を理解する。 ●除細動の適応と禁忌、注意点と合併症と除細動時の留意点を学ぶ。					
3	【授業単元】気道異物除去 口腔内の吸引 【授業形態】講義 【到達目標】 ●用手的気道異物除去の手技及び適応と禁忌を理解する。 ●器具による気道異物除去手技及び適応と禁忌を理解する。 ●口腔内の吸引手技及び適応と禁忌、注意点と合併症を理解する。	11	【授業単元】中間試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】 ●これまで学習した全範囲の定期試験					
4	【授業単元】声門上気道デバイスを用いた気道確保 【授業形態】講義 【到達目標】 ●救急救命処置の特定行為とは何か復習する。 ●声門上気道デバイスの種類、適応サイズを理解する。 ●声門上気道デバイスの手技及び適応と禁忌、合併症を理解する。	12	【授業単元】静脈路と輸液 【授業形態】講義 【到達目標】 ●静脈路確保の目的、適応と禁忌、合併症を理解する。 ●各種資器材の名称を理解する。					
5	【授業単元】気管内挿管 気管吸引 【授業形態】講義 【到達目標】 ●特定行為の気管内挿管に関する目的を理解する。 ●気管内挿管、気管内吸引の手技、適応と禁忌、注意点と合併症を理解する。 ●ビデオ硬性喉頭鏡の適応と使用方法を理解する。	13	【授業単元】アドレナリン投与 【授業形態】講義 【到達目標】 ●アドレナリン投与の目的、適応と合併症を理解する。 ●各種資器材の名称を理解する。 ●エピペンの適応と禁忌、注意点と合併症を理解する。					
6	【授業単元】気管内挿管 気管吸引 【授業形態】講義 【到達目標】 ●特定行為の気管内挿管に関する目的を理解する。 ●気管内挿管、気管内吸引の手技、適応と禁忌、注意点と合併症を理解する。 ●ビデオ硬性喉頭鏡の適応と使用方法を理解する。	14	【授業単元】ブドウ糖投与 【授業形態】講義 【到達目標】 ●ブドウ糖投与の必要性、適応と禁忌、注意点と合併症を理解する。					
7	【授業単元】酸素投与 【授業形態】講義 【到達目標】 ●酸素投与の目的を理解する。 ●酸素投与を行う資器材と酸素流量を理解する。 ●酸素投与に関する適応と禁忌、注意点と合併症を理解する。	15	【授業単元】体位管理、体温管理 【授業形態】講義 【到達目標】 ●体位管理の必要性を理解する。 ●体位の適応と手順、注意点を理解する。 ●保温と冷却の目的と違いを理解する。					
8	【授業単元】人工呼吸 【授業形態】講義 【到達目標】 ●人工呼吸の目的と方法、補助換気を理解する。 ●気道確保と人工呼吸の基本的な手技、注意点を理解する。 ●人工呼吸の注意点と合併症を理解する。	【評価について】 配布プリント、中間試験、定期試験で100点満点の総合評価とする。 但し、遅刻及び欠席を加味し、上記から減点を行うものとする。 配布プリント 中間試験(国家試験形式) 定期試験(国家試験形式) 評価方法は学則規定に準ずる。						
【特記事項】								

科目名 (英.)	処置論 (Medical Treatment) 学科・コース 救急救命士科	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	渥美 栄一	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 (3)	開講区分	後期	
						曜日・時間		
【授業の学習内容と心構え】 消防機関における消防・救急業務において、救急救命士として実務・事務に携わり、他の教育機関においても広く教育活動に携わってきた教員が、観察から「緊急度・重症度」を考慮した処置の基本的な手技を理解するとともに、処置の適応や禁忌、合併症をしっかり理解した上で活動できる知識を身につける。								
【到達目標】 1. 救急救命士が行う救急救命処置に関する知識を学び、シミュレーション実習で技術を学び現場で活用できる手技のための基礎を固める。 2. 救急現場での処置に必要な救急資器材の取り扱い、適応と禁忌・合併症と各処置に関する注意事項を理解する。								
【使用教科書・教材・参考書】 ・救急救命士標準テキスト				【授業外における学習】 テキスト該当範囲における不明な語句、文章及び資料は予め調べて授業に臨むこと。また、各小テストの復習を都度と行うこと。				
回	授業概要	回	授業概要					
16	【授業単元】止血、創傷処置、固定 【授業形態】講義 【到達目標】 ●外傷傷病者に起こるであろう止血や被覆、固定の適応と禁忌、注意点と合併症を理解する。							
17	【授業単元】産婦人科の領域の処置 【授業形態】講義 【到達目標】 ●救急救命処置で実施することを想定した分娩介助の目的を学ぶ。 ●分娩介助に必要な資器材を理解する。 ●							
18	【授業単元】心肺蘇生法(1) 【授業形態】講義 【到達目標】 ●G2015に基いた救急隊が行うBLSとALSを理解する。 ●前回実施した除細動、声門上or気管挿管、静脈路確保、アドレナリン投与、ブドウ糖投与プロトコールの活動を振返る。							
19	【授業単元】心肺蘇生法(2) 【授業形態】講義 【到達目標】 ●G2015に基いた救急隊が行うBLSとALSを理解する。 ●前回実施した除細動、声門上or気管挿管、静脈路確保、アドレナリン投与、ブドウ糖投与プロトコールの活動を振返る。 ●小児・乳児の救急蘇生法を理解する。							
20	【授業単元】在宅療法とは、在宅療法への対応 【授業形態】講義 【到達目標】 ●在宅療法受療者の傾向を理解する。 ●在宅療法への観察のポイント、問題点と対処法を理解する。							
21	【授業単元】搬送総論、搬送方法 【授業形態】講義 【到達目標】 ●規定面積とボディメカニクスを理解する。 ●各種搬送用資器材の使用目的を理解し、現場活動で選択できる。 ●事故車両からの救出方法を理解する。							
22	【授業単元】搬送総論、搬送方法 【授業形態】講義 【到達目標】 ●規定面積とボディメカニクスを理解する。 ●各種搬送用資器材の使用目的を理解し、現場活動で選択できる。 ●事故車両からの救出方法を理解する。							
23	【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】 ●これまで学習した全範囲の定期試験	【評価について】 配布プリント、中間試験、定期試験で100点満点の総合評価とする。 但し、遅刻及び欠席を加味し、上記から減点を行うものとする。 配布プリント 中間試験(国家試験形式) 定期試験(国家試験形式)						
【特記事項】				評価方法は学則規定に準ずる。				

科目名 (英)	シミュレーション実習 I (Simulation I)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	千田晋治・作山洋貴・能登誠	
		授業形態	実習	総時間(単位)	135時間(3)	開講区分	前期	
【授業の学習内容と心構え】								
救急救命士として救急活動に従事、地域メディカルコントロール・消防学校などで指導教育を担当した教員が、知識を確認しながら現場に対応できる技術を習得する授業を行う。救急現場で重要な基礎的な手技から、チームで行う複合的、連携能力を身につけて欲しい。実習がメインの授業で、毎回新しい手技が増えていくため遅刻、欠席せず、技術の向上に励んで欲しい。傷病者にとって最も良いことは何かをチームで考えられるようになって欲しい。								
【到達目標】								
個人技術と知識を結びつけ、的確な処置が行えるようになる。 チームとして仲間と連携し、お互いに指導、改善することができる。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
第10版 救急救命士標準テキスト				授業内で修得できなかった技術に関しては、チームで復習する。 修得した処置の意味をテキストで再確認する。				
回	授業概要	回	授業概要					
	<p>【授業単元】訓練計画・規律訓練・生体アプローチ</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訓練計画を理解する。 ・規律訓練の意味を知る。 ・人の身体を知る。(学生相互) 		<p>【授業単元】生体アプローチ(状況聴取・観察要領)</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発症状況、受傷機転、傷病者情報の必要性を理解する。 ・バイタルサイン等の生体情報の収集と要領を学ぶ。 					
	<p>【授業単元】規律訓練・観察要領・気道確保・人工呼吸</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本礼式(気をつけ、右へ習え、整列休め)を出来るようになる、 ・実施者、号令者の両方を経験する。 ・バイタルサイン・基本的な観察要領及び人工呼吸まで 		<p>【授業単元】各種救急器材取扱い・無線報告要領</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士が使用する救急器材を知る。 ・各消防本部、医療機関、医師等への報告要領を知る。 					
	<p>【授業単元】規律訓練・心肺蘇生法・AED活用(1人-2人)</p> <p>【授業形態】講義・実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な礼式を理解する。 ・基本的な観察要領及び心肺蘇生法(AED)まで 		<p>【授業単元】救急器材の取扱い・バイタルサイン等の測定要領</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士が使用する救急器材を知る。 ・各消防本部、医療機関、医師等への報告要領を知る。 					
	<p>【授業単元】規律訓練・気道確保・BVM使用・人工呼吸・異物除去</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な礼式を理解する。 ・異物除去を理解する。 ・BVMを使用した心肺蘇生法(AED)まで 		<p>【授業単元】基本的な救急隊活動(CPA症例)</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2人法・3人による基本的な隊活動要領 					
	<p>【授業単元】規律訓練・心肺蘇生法(BVM-CPR2人法)</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な礼式を実践できる。 ・BVMを使用した心肺蘇生法(AED) 		<p>【授業単元】・異物除去・開口・器具による気道確保等(清拭、吸引含む)</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用手、資器材を用いた気道確保 ・清拭、吸引要領 					
	<p>【授業単元】規律訓練・体位管理・保温・搬送法</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な礼式を実践できる。 ・基本的な体位管理、保温、搬送法を理解する。 		<p>【授業単元】異物除去・喉頭展開(喉頭鏡・マギール鉗子)</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異物除去要領 ・隊連携 ・介助要領 					
	<p>【授業単元】規律訓練・PA連携(3人)・救急器材の取り扱い</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な礼式を実践できる。 ・PA連携として隊活動できる。 ・基本的な救急器材の取り扱いを理解する。 		<p>【授業単元】基本的な救急活動(異物除去からCPA)</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窒息による傷病者に対する救急活動(隊連携) 					
	<p>【授業単元】規律訓練・止血法・包帯法・固定法・PA連携</p> <p>【授業形態】講義・実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な礼式を実践できる。 ・基本的な止血法・包帯法・固定法を理解する。 		<p>【授業単元】効果測定/前期定期試験</p> <p>【授業形態】筆記及び実技</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異物除去(喉頭鏡・マギール鉗子) ・CPA対応 					
	<p>【授業単元】効果測定(中間審査)</p> <p>【授業形態】筆記及び実技</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な礼式・気道確保要領 ・BVM使用2人法CPR 							
	<p>【授業単元】規律訓練・基本的な結索要領</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な礼式を実践できる。 ・基本的な結索ができる。 		<p>【評価について】</p> <p>評価は実技試験と平素の学習状況で評価する。 適宜実施するミニテストも評価対象とする。</p> <p>中間試験(平素の学習状況含む)を40%、定期試験を60%の合計で評価する。 平素の状況とは、出席状況や授業中の態度はもちろん、準備、撤収の姿勢を含む。</p>					
【特記事項】								

科目名 (英)	シミュレーション実習 I (Simulation I)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	千田晋治・作山洋貴・能登誠	
		授業形態	実習	総時間(単位)	135時間(3)	開講区分	後期	
【授業の学習内容と心構え】								
救急救命士として救急活動に従事、地域メディカルコントロール・消防学校などで指導教育を担当した教員が、知識を確認しながら現場に対応できる技術を習得する授業を行う。救急現場で重要な基礎的な手技から、チームで行う複合的、連携能力を身につけて欲しい。実習がメインの授業で、毎回新しい手技が増えていくため遅刻、欠席せず、技術の向上に励んで欲しい。傷病者にとって最も良いことは何かをチームで考えられるようになって欲しい。								
【到達目標】								
個人技術と知識を結びつけ、的確な処置が行えるようになる。 チームとして仲間と連携し、お互いに指導、改善することができる。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
第10版 救急救命士標準テキスト				授業内で修得できなかった技術に関しては、チームで復習する。 修得した処置の意味をテキストで再確認する。				
回	授業概要	回	授業概要					
	<p>【授業単元】外傷の全身観察(ヘルメット離脱・頭部固定含)</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外傷の全身観察ができる。 ・ヘルメット離脱、頭部固定ができる。 		<p>【授業単元】特定行為(気管挿管・静脈路確保・介助)</p> <p>【授業形態】講義・実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士が行う特定行為等の介助ができる。 					
	<p>【授業単元】外傷の全身観察(ヘルメット離脱・頭部固定含)</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外傷の全身観察ができる。 ・ヘルメット離脱、頭部固定ができる。 		<p>【授業単元】想定訓練(合同訓練)・反復訓練(基本手技)</p> <p>【授業形態】講義・実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想定された傷病者に対する救急隊活動を行う。・上級生と合同の訓練を行う。 					
	<p>【授業単元】外傷の全身観察・頭部固定・全脊柱固定</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクープストレッチャー、バックボードを活用した全脊柱固定を学ぶ。 		<p>【授業単元】想定訓練(合同訓練)・反復訓練(基本手技)</p> <p>【授業形態】講義・実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想定された傷病者に対する救急隊活動を行う。・上級生と合同の訓練を行う。 					
	<p>【授業単元】止血法・包帯法・固定法</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・止血法・包帯法・固定法を理解し、活用できる。 		<p>【授業単元】想定訓練(合同訓練)・反復訓練(基本手技)</p> <p>【授業形態】講義・実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想定された傷病者に対する救急隊活動を行う。・上級生と合同の訓練を行う。 					
	<p>【授業単元】体位管理・収容要領</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な体位管理を理解する。 ・搬送資器材への収容要領、搬送要領、保温ができる。 ・搬送法(徒手・平坦架・メイン・サブ・布) 		<p>【授業単元】効果測定/期末試験/基本的な救急活動(疾病・外傷)</p> <p>【授業形態】筆記及び実技</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生体に対する観察要領及び容態変化に対する隊活動ができる。 					
	<p>【授業単元】トリアージ要領(複数傷者・多数傷者)</p> <p>【授業形態】講義・実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・START法、PAT法を理解し、トリアージ要領を学ぶ。 							
	<p>【授業単元】効果測定/中間試験:外傷対応</p> <p>【授業形態】筆記及び実技</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外傷傷病者の全身観察要領及び全脊柱固定ができる。 							
	<p>【授業単元】疾病想定(継続観察・容態変化対応含む)</p> <p>【授業形態】講義・実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾病想定に対する傷病者の継続観察及び容態変化時の対応を学ぶ。 							
	<p>【授業単元】外傷想定(継続観察・容態変化対応含む)</p> <p>【授業形態】講義・実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外傷想定に対する傷病者の継続観察及び容態変化時の対応を学ぶ。 							
	<p>【授業単元】特定行為(気管挿管・静脈路確保・介助)</p> <p>【授業形態】講義・実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士が行う特定行為等の介助ができる。 		<p>【評価について】</p> <p>評価は実技試験と平素の学習状況で評価する。 適宜実施するミニテストも評価対象とする。</p> <p>中間試験(平素の学習状況含む)を40%、期末試験を60%の合計で評価する。 平素の状況とは、出席状況や授業中の態度はもちろん、準備、撤収の姿勢を含む。</p>					
【特記事項】								

科目名 (英)	一般知能・知識 (General Intelligence and Knowledge)	必修 選択	必修	年次	1年	徳岡 健男	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	120時間 (8)	前期	
【授業の学習内容と心構え】							
専門学校の教員として、公務員試験科目(人文・社会)を担当してきた教員が、公務員試験(消防官)合格のための授業を実施する。具体的科目として「政治」について、短大卒業程度レベルの知識を身につけさせる授業である。この授業の実施後には、公務員試験の中級・短大卒程度の政治問題が解けるレベルになることが目標である。							
【到達目標】							
消防官試験で出題される「政治分野」について、短大卒業までに学習しておくべきレベルに到達させる。							
時事一般教養について、公務員として地域住民とコミュニケーションが取れる程度の教養レベルに到達させる。							
【使用教科書・教材・参考書】		【授業外における学習】					
書名:公務員(東京アカデミー編) 人文・社会 消防官試験・過去問題		予習は不要であるが、復習に時間を割いてほしい。今まで勉強したことのない言葉や抽象的な言葉が多く、知識を定着させづらい科目であるので、自習により理解を深めることが必要である。					
回	授業概要	回	授業概要				
	<p>【授業単元】政治・民主政治の原理</p> <p>【授業形態】講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>国家成立の思想を学ぶ。中でも王権神授説と社会契約説を理解し、社会契約説については著名な論者と内容を把握できる。</p>		<p>【授業単元】日本国憲法の三大原理・基本的人権</p> <p>【授業形態】講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>社会権の内容を理解できる。また新しい人権として、知る権利・プライバシー権・環境権なども根拠となる憲法条文に照らして理解できる。</p>				
	<p>【授業単元】政治・民主政治の原理</p> <p>【授業形態】講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>政治・國家権力・法が一本の線でつながっている事を理解できる。また、国家と呼ばれるための要素と、国家観の変遷を理解できる。</p>		<p>【授業単元】日本国憲法の三大原理・平和主義</p> <p>【授業形態】講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本国憲法の平和主義に関する条文を確認し、軍事力増大への歯止めとしての日本の防衛原則(シビリアンコントロール)を理解できる。</p>				
	<p>【授業単元】政治・民主政治の原理</p> <p>【授業形態】講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>人権保障の原理を理解し、法の支配と立憲主義を学ぶ。さらに人権の歴史を「自由権」「社会権」「参政権」それぞれの内容を理解できる。</p>		<p>【授業単元】日本国憲法と政治制度・国会</p> <p>【授業形態】講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>憲法に規定された国会の地位と構成、二院制の長所を理解できる。二院制において衆議院の優越の内容を押さえる。</p>				
	<p>【授業単元】政治・民主政治の原理</p> <p>【授業形態】講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>世界の政治制度として、イギリスの議員内閣制、アメリカの大統領制、社会主義国の権力集中制を理解できる。</p>		<p>【授業単元】日本国憲法と政治制度・内閣</p> <p>【授業形態】講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>憲法における内閣の地位と銀内閣制について理解できる。また内閣の組織と権限を押さえる。</p>				
	<p>【授業単元】日本国憲法の三大原理</p> <p>【授業形態】日本国憲法の制定</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本国憲法の基本原理を確認し、明治憲法との違いを押さえる。また、国民主権の下での天皇の地位を理解できる。</p>		<p>【授業単元】日本国憲法と政治制度・裁判所</p> <p>【授業形態】講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>司法権の独立を、裁判所と裁判官の両面から理解できる。また裁判制度を押さえ、違憲法令審査制の2つのパターンの違いを理解できる。</p>				
	<p>【授業単元】日本国憲法の三大原理・国民主権</p> <p>【授業形態】講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>原則としての間接民主制と、例外としての直接民主制を理解する。中でも憲法改正のための「国民投票」と改正までの流れを理解できる。</p>		<p>【授業単元】日本国憲法と政治制度・地方自治</p> <p>【授業形態】講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>地方自治の2つの基本原則を理解できる。また国政においては原則として採用されていない直接民主制が、直接請求権として大幅に取り入れられていることを理解できる。</p>				
	<p>【授業単元】日本国憲法の三大原理・基本的人権</p> <p>【授業形態】講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>人権の全体像を押さえ、その分類を理解できる。また人権を制限する「公共の福祉」という概念を理解できる。</p>		<p>【授業単元】現代政治の諸問題・選挙</p> <p>【授業形態】講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>選挙の基本原則と各選挙制度の長所・短所を理解できる。また衆議院・参議院の選挙制度の違いを押さえる。</p>				
	<p>【授業単元】日本国憲法の三大原理・基本的人権</p> <p>【授業形態】講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>「自由権」の内容を理解できる。特に「精神の自由」「人身の自由」については、過去の判例を読み理解できる。</p>		【評価について】	授業ごとに小テストか課題を与え、内容理解の確認をする。また定期試験として筆記試験を行なう。小テスト・課題40点・筆記試験60点、合計100点満点で評価する。詳細は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】		授業ごとに復習をして、理解できない点は次の授業で質問を積極的にすることが大切である。					

科目名 (英)	一般知能・知識 (General Intelligence and Knowledge)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	藤 雅茂
学科・専攻	救急救命士科	授業形態	講義	総時間 (単位)	120時間 (8)	開講区分 曜日・時間	前期
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
長年に渡って消防を中心とした公安職の公務員対策に携わってきた教員が、公務員試験の重要度の高い問題を解説することで、1次試験の合格に必要な知識を学ぶ。							
【到達目標】							
公務員試験では数的推理、判断推理、空間把握、数学の習得が合否の鍵を握る。そこで本科目は前掲にあげた科目の解法を理解するための一般知識(中学校3年生までの算数、数学)の理解を目標とする。又、同試験は問題の正確な把握が肝要である。そこで、理解力の向上を図るために、国語読解・計算力などの基礎トレーニングも同時に実行する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
オープンセミナー系列 公務員 国家公務員地方初級 一般知能 2020				公務員試験において計算能力と漢字の読み書き、英語の読解力が重要になるので、毎日、Teams上にアップロードした基礎問題への取り組みが求められる。			
回	授業概要	回	授業概要				
	【授業単元】オリエンテーションと公務員試験の概略 【授業形態】講義 【到達目標】 オリエンテーション 一般知能知識と総合基礎の授業の位置づけと公務員の本試験概要・日程を理解する。		【授業単元】数的推理 第1章 方程式 【授業形態】講義 【到達目標】 平均算、年齢算の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。				
	【授業単元】学習方略とは何か 【授業形態】講義 【到達目標】 学習方略とは、学習の効果的な活動の様々な方法である。最新の学習方略の知見を理解し、どのようにすれば学習活動を改善できるか検討する。		【授業単元】数的推理 第2章 割合 【授業形態】講義 【到達目標】 比と混合算の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。				
	【授業単元】ノートテーキングとファイリング 【授業形態】講義 【到達目標】 Teamsを中心としたICT教育に適したノートテーキングとファイリング方法を学ぶ。		【授業単元】数的推理 第2章 割合 【授業形態】講義 【到達目標】 売買算と増減算の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。				
	【授業単元】数的推理 第1章 方程式 【授業形態】講義 【到達目標】 四則応用問題(当選確実票数、密度)の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。		【授業単元】数的推理 第2章 割合 【授業形態】講義 【到達目標】 仕事算とニュートン算の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。				
	【授業単元】数的推理 第1章 方程式 【授業形態】講義 【到達目標】 一元一次、二元一次方程式の問題の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。		【授業単元】数的推理 第3章 速さ 【授業形態】講義 【到達目標】 速さと旅人算の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。				
	【授業単元】数的推理 第1章 方程式 【授業形態】講義 【到達目標】 二元一次方程式、三元一次方程式の問題の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの規則性の問題を解答できる。		【授業単元】数的推理 第3章 速さ 【授業形態】講義 【到達目標】 通過算と流水算の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。				
	【授業単元】数的推理 第1章 方程式 【授業形態】講義 【到達目標】 三元一次方程式、不定方程式の問題の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。		【授業単元】定期試験、解答解説 【授業形態】講義 【到達目標】 教科書(第1, 2, 3章)と同等レベルの東京消防庁出題問題を解答することができる。				
	【授業単元】中間試験、解答解説 【授業形態】講義 【到達目標】 文章題を方程式を用いて解答できるかどうか、東京消防庁Ⅲ類レベルで確認する。		【評価方法について】 学則規定に準ずる				
【特記事項】							

科目名 (英) 学科・コース	一般知能・知識 (General Intelligence and Knowledge) 救急救命士科	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	徳岡 健男	
		授業形態	講義	総時間 (単位)	120時間 (8)	開講区分 曜日・時間	後期	
【授業の学習内容と心構え】								
専門学校の教員として、公務員試験科目(人文・社会)を担当してきた教員が、公務員試験合格のための授業を実施する。具体的には「経済」を中心に理解を深める。特に、経済理論の基礎、日本経済発展の歴史や経済関連の諸問題として環境問題、少子高齢化社会、社会福祉などの時事について、短大卒業程度レベルの知識を身につけさせる授業である。授業実施後においては、公務員試験の中級・短大卒程度の経済問題が解けるレベルになることが目標である。また、「小論文」の比重が高まっていることから、分かりやすい文章の書き方等、小論文の対策も授業の後半でおこなう。								
【到達目標】								
消防官試験で出題される経済知識の範囲について、短大卒業レベル問題が正答できる程度までに到達させる。								
時事一般教養(環境問題や社会福祉等)について、地域住民とコミュニケーションが取れる程度の教養レベルに到達させる。								
自分の意見を、相手にわかりやすく、正確に伝えることができる文章力を身につけさせる。								
【使用教科書・教材・参考書】		【授業外における学習】						
書名:公務員(東京アカデミー編) 人文・社会 消防官試験・過去問題		経済については、日々、時事のニュースへの関心をもち、生活と結び付けて理解することが効率的である。したがって、TVやネット等で話題になっているテーマについて自分で調べて授業に参加することを期待したい。						
回	授業概要	回	授業概要					
	【授業単元】 経済理論・資本主義と社会主義 【授業形態】 講義 【到達目標】 資本主義経済と社会主義経済の異なる4つのポイントを理解する。また、歴史的な変化の流れを整理して理解する。		【授業単元】 日本経済・日本経済の諸問題Ⅱ 【授業形態】 講義 【到達目標】 公害・環境問題への国を取り組み方の変化を押さえ、地球環境問題の種類と国際的な取り組みを整理する。					
	【授業単元】 経済理論・経済主体と経済循環 【授業形態】 講義 【到達目標】 経済の基本用語を押さえ、3つの経済主体の関係を理解する。また現代企業の中心的な形態である株式会社について理解する。		【授業単元】 日本経済・社会保障 【授業形態】 講義 【到達目標】 社会保障の理念の変化に注目しながら、歴史的事項を整理して理解する。また日本の社会保障の4分野の構成と、その内容を理解する。さらに少子高齢化の進行と社会保障制度の対応について押さえよう。					
	【授業単元】 経済理論・市場機構 【授業形態】 講義 【到達目標】 価格の変化で需要と供給が均衡に向かう仕組みを理解し、価格以外の要因で需要と供給が変化する仕組みを理解する。		【授業単元】 国際経済・貿易 【授業形態】 講義 【到達目標】 比較生産費説の理解を中心に自由貿易と保護貿易をまとめて理解する。また国際収支の区分と、どの取引がどの区分に入るかを整理して押さえよう。					
	【授業単元】 経済理論・金融 【授業形態】 講義 【到達目標】 通貨の役割と通貨制度を押さえ、金融機関の役割と信用創造について理解する。また日本銀行の役割と通貨量調整の方法を理解する。		【授業単元】 前期の総復習・政治と経済 【授業形態】 講義 【到達目標】 政治分野について、東京消防庁の過去問題を演習し、重要な論点を整理し理解する。					
	【授業単元】 経済理論・財政 【授業形態】 講義 【到達目標】 市場の失敗をカバーする財政の役割を理解する。また財政による景気変動の調整方法を押さえ。さらに租税の種類、国債発行の原則を理解する。		【授業単元】 後期の総復習・政治と経済 【授業形態】 講義 【到達目標】 経済分野について、東京消防庁の過去問題を演習し、重要な論点を整理し理解する。					
	【授業単元】 経済理論・国民所得 【授業形態】 講義 【到達目標】 ストックとフローの区別に注意して、国富の意味を理解する。また、GNP／NNP／GDPの関係を理解する。		【授業単元】 わかりやすい文章の書き方 【授業形態】 講義 【到達目標】 わかりやすい文章とはどのような文章なのかを理解する。そのため必要な技術を知る。そして、実際に400字程度の文章を書く。					
	【授業単元】 日本経済・戦後の日本経済 【授業形態】 講義 【到達目標】 戦後の日本経済の歴史を、「戦後復興期」、「高度経済成長期」、「高度成長期以後」の3段階で押さえ、それぞれの特徴を理解する。		【授業単元】 わかりやすい文章の書き方 【授業形態】 講義 【到達目標】 作文と小論文の違いを理解する。「作文は主観が中心で情緒的であり、小論文は客觀性をもち、理性に訴える」ということを実例を挙げて理解する。					
	【授業単元】 日本経済・日本経済の諸問題Ⅰ 【授業形態】 講義 【到達目標】 大企業との二重構造を軸として、中小企業の問題を理解する。また消費者の権利を守る取り組みや法制を理解する。		【評価について】 授業ごとに小テストか課題を与え、内容理解の確認をする。また定期試験として筆記試験を行なう。小テスト・課題40点・筆記試験60点、合計100点満点で評価する。詳細は、学則規定に準ずる。					
【特記事項】 授業ごとに復習をして、理解できない点は次の授業で質問を積極的にする方が大切である。								

科目名 (英)	一般知能・知識 (General Intelligence and Knowledge)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	藤 雅茂
		授業形態	講義	総時間 (単位)	120時間 (8)	開講区分	後期
学科・専攻	救急救命士科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
長年に渡って消防を中心とした公安職の公務員対策に携わってきた教員が、公務員試験の重要度の高い問題を解説することで、1次試験の合格に必要な知識を学ぶ。							
【到達目標】							
公務員試験では数的推理、判断推理、空間把握、数学の習得が合否の鍵を握る。そこで本科目は前掲にあげた科目的解法を理解するための一般知識(中学校3年生までの算数、数学)の理解を目標とする。又、同試験は問題の正確な把握が肝要である。そこで、理解力の向上を図るために、国語読解・計算力などの基礎トレーニングも同時に実行する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
オープンセミシリーズ 公務員 国家公務員地方初級 一般知能 2020				公務員試験において計算能力と漢字の読み書き、英語の読解力が重要になるので、毎日、Teams上にアップロードした基礎問題への取り組みが求められる。			
回	授業概要	回	授業概要				
	【授業単元】数的推理 第3章 速さ 【授業形態】講義 【到達目標】時計算の解法を理解し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。 速さの問題(旅人算、通過算、流水算等)が理解できているかを確認する。		【授業単元】数的推理 第7章 計算パズル 【授業形態】講義 【到達目標】魔方陣・穴埋め算の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。				
	【授業単元】数的推理 第4章 確率 【授業形態】講義 【到達目標】和の法則と積の法則を用いて、場合の数の、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。		【授業単元】数的推理 第8章 規則性 【授業形態】講義 【到達目標】等差数列、等差数列の和、等比数列、等比数列の和に関する問題の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。				
	【授業単元】数的推理 第4章 確率 【授業形態】講義 【到達目標】順列(同じものを含む順列、円順列、数珠順列、重複順列)の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。		【授業単元】判断推理 第1章 順序関係 【授業形態】講義 【到達目標】定量的順序関係、定性的順序関係に関する問題の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。				
	【授業単元】数的推理 第4章 確率 【授業形態】講義 【到達目標】組合せ(重複組合せ)の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。		【授業単元】判断推理 第1章 順序関係 【授業形態】講義 【到達目標】定性的順序関係、順序関係の変動の関する問題の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。				
	【授業単元】数的推理 第4章 確率 【授業形態】講義 【到達目標】確率(確率の定義、余事象、加法定理、乗法定理)の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。		【授業単元】判断推理 第2章 対応関係 【授業形態】講義 【到達目標】二集合対応、多集合対応に関する問題の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。				
	【授業単元】数的推理 第6章 整数 【授業形態】講義 【到達目標】整数・約数・倍数・剰余に関する問題の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。		【授業単元】判断推理 第2章 対応関係 【授業形態】講義 【到達目標】多集合対応、組み分け、家系図に関する問題の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。				
	【授業単元】数的推理 第6章 整数 【授業形態】講義 【到達目標】約記号と記數法に関する問題の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの問題を解答できる。		【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】教科書と同等レベルの東京消防庁出題問題を解答することができる。				
	【授業単元】中間試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】確率と整数に関する問題を解答できるかどうかを、東京消防庁の過去問を用いて確認する。		【評価方法について】 中間試験40点と定期試験60点で総合し、A~Fの6段階で評価を行う。中間試験、定期試験ともに記述問題で構成される。定期試験は数的推理のみ。式と答の両方を正解しないと得点にならない。				
【特記事項】							